

2015年度 公益社団法人宇都宮青年会議所
全国大会宇都宮大会招致理念（案）

100年繁栄都市うつのみや

【宇都宮の生い立ちと青年会議所とのかかわり】

私たちの愛する宇都宮市は、北西に日光連山、北に那須連山を望み、東に鬼怒川の清流、南には広大な関東平野がひらけ、美しく豊かな自然に恵まれています。内陸という立地により海からの恩恵がなかった宇都宮では、坂東武者特有の粘り強さを育み、新幹線や高速道路、鉄道各線の整備を積極的に推し進め、商工業や金融機関が集積する北関東の中核拠点としての優位性を築いてきました。宇都宮JCは、1967年に「福祉社会の実現」を創始の精神に掲げ設立し、時代の変遷に伴う価値観の多様化の中で、様々な課題と真摯に向き合い、時代の荒波に揉まれながら失敗と成功を積み重ね着実にまちを創ってきました。宇都宮JC設立10周年の記念事業である「ふるさと宮まつり」は2015年に第40回を数え、宇都宮市民にとっては欠かせない夏の一大行事となっております。当時から使われている「であいとふれあいの広場」というキーワードは、市民の交流の場を作り、お互いの「心」のふれあいを求め、市民意識の高揚を図ることを目的として作られ、現在でも色褪せることなく使われ続けております。この「ふるさと宮まつり」を成功させた粘り強さと困難に立ち向かう勇敢さが、アジア最高位のジャパンカップサイクルロードレースの開催につながっており、日本初の地域密着型自転車ロードレースチームである「宇都宮ブリッツェン」の創設に活かされました。ロードバイクの文化を日本に芽吹かせた大きな要因は我々の運動の成果といえます。

【迫りくる現実】

「日本創成会議」が発表した2040年に自治体の過半数が消滅するという予測は、責任世代である我々にとって誇りに思う自分たちのまちを子や孫の世代に受け継ぐことができないという未来を含んでおり、人口減少が起き始めている今日は、日本全体がパラダイムシフトともいべき価値観の変革時期にあり、市民や企業、専門性をもった多くのNPO団体が行政とともにまちづくりに参画することが、持続可能な都市を実現するための唯一の手段となります。宇都宮市は、5年後の市民の幸せを実現するために、「持続的に発展できるまちづくり」の取り組みを進めており、長期的視野のもとで都市空間そのもののあり方を見直し、各地域の特色をさらに発展させ連携する「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を進めております。宇都宮JCが目指す福祉社会の実現は、行政の目指す方向性と一致し、自分たちのまちの未来は自分たちで切り拓く、そんな気概を持った仲間を増やしていく運動こそがこのまちの財産になり、後世に明るい未来を築くための礎となります。

我々青年にしかできないことは、このまちの未来を語り、市民の意識を変えていくことに他なりません。全国大会は市民のまちに対する意識を行動に変え、地方都市として独自の文化を築いてきた誇りを奮い立たせ、青年がまちの未来を創りあげる契機となります。

我々は全国大会を通じて、このまちの素晴らしさやその姿、目標に向かいどのような困難にも立ち向かう精神性を日本全国に発信し、100年先も繁栄し続ける地域社会の礎を築きます。